

研究・調査報告書

分類番号	報告書番号	担当
A-133	12-098	滋賀医科大学社会医学講座公衆衛生学
題名 (原題/訳)		
Combining rapid HIV testing and a brief alcohol intervention in young unhealthy drinkers in the emergency department: a pilot study. 救急外来における HIV 迅速検査と短期飲酒介入の効果		
執筆者		
Edelman EJ, Dinh A, Radulescu R, Lurie B, D'Onofrio G, Tetrault JM, Fiellin DA, Fiellin LE		
掲載誌		
Am J Drug Alcohol Abuse. 2012 Nov;38(6):539-43		
キーワード		
HIV、飲酒、救急外来、カウンセリング、危険な性行為		
要旨		
目的： 救急外来で HIV 迅速検査に併せて、飲酒と危険な性行為のリスクを減少させるカウンセリングを行うことの効果を検証した。		
方法： 対象者は 18-40 歳で、不健康な飲酒歴があり、90 日以内に性行為があり、以前に HIV 陽性と診断されていない者とし、救急外来受診時と 2 か月後の飲酒と性行為の状況を比較した。		
結果： 対象者は85名であり、61%が男性、平均年齢は26歳、59%が白人、92%が独身、57%が高校より上位の学歴、45%がかかりつけ医を持たず、80%がAUDIT \geq 8であった。HIV迅速検査の結果はすべて陰性であった。2か月後に追跡できたのは70名(82%)であり、1週間の平均飲酒数は23.6杯から9.8杯へ減少(p=0.003)し、1週間の大量飲酒は2.0回から0.9回へ減少(p=0.012)した。2か月後には、性行為の危険性は減少し、コンドームの使用割合は23%から46%へ増加(p=0.007)した。性行為前の飲酒は男性より、女性でより大きな減少効果(p=0.021)が認められた。		
結論： 救急外来でHIV検査に併せて行う飲酒・性行為介入カウンセリングは、不健康な飲酒習慣のある若年者の飲酒量と危険な性行為を減らす可能性がある。今後、無作為化比較試験によりこの介入の効果を明らかにすることで、他に医療アクセスをもたないであろう危険な状態にある若年者に重要な予防策を提供することができるかもしれない。		